

伝えよう つながろう 夢に向かって

NO.3 (2022.12.26)

第3回学校運営協議会を開催しました

12月5日(月曜日)、第3回学校運営協議会を開催しました。今回のテーマは、「浜田ろう学校の価値を高めるための取組～それぞれの立場でできること～」とし、取組の経過報告やグループワークを行いました。残念ながら半分の委員の皆様のご都合がつかせんでしたが、活発な意見交換ができました。

□取組経過報告

馬場委員より地域との協働学習の経過を報告いただきました。その中で、馬場委員が主催される体験型児童クラブ「サマースクールとうもろこし」に参加している小学生がろう学校に興味をもち、手話を一生懸命勉強してから浜ろうフェスティバルに参加したこと、ろう学校の生徒と手話であいさつできてとても嬉しかったこと、などのエピソードを話してくださいました。ろう学校の子もたちとやりとりのできる仕掛けと積極的に関わる機会を提供する大切さについてお話いただきました。

□グループワーク

【浜田ろう学校の良さ】

- 1人1人の声が聞ける
- 幼稚部から高等部までの進路の道筋が見えやすい
- 情報機器 (ICT) が充実している
- 他校と合同で部活動をしている

【浜田ろう学校の課題】

- 人数が少なく、出身地域が離れている。
- 多様な考えを学びにくい。
- 卒業生が少なく、ロールモデルとなる先輩を見る (と出会う) 機会が少ない

【浜ろうの価値を高めるための取組】

- 卒業生とグループワークをする。
- 卒業生の姿から学ぶ機会を持つ
- 地域との繋がりを作っていく活動の推進
- 難聴学級の子どもや保護者にとって魅力となる活動を考える
- 西部地域に早期支援体制を作るなど様々な意見が出されました。



□福島会長のまとめ

- ①西部地域には、保健・医療・福祉・教育が連携した支援システムがない。早期に関係機関が情報共有できる仕組みを作ること、さらに難聴児支援センター創設に向けた働きかけをすることによって教育の入口・出口の支援体制を作ることが大切。
- ②聴覚障がい教育には専門性が必要であり、その取得と維持が課題。言語聴覚士を任用することによって専門性の向上を図ることができる。とよい。
- ③浜田ろう学校の価値を高めるためには、校内外の保護者への働きかけに尽きる。いかに難聴児の保護者に目と心を向いてもらえるアピールをするかが鍵になる。等のまとめをいただきました。